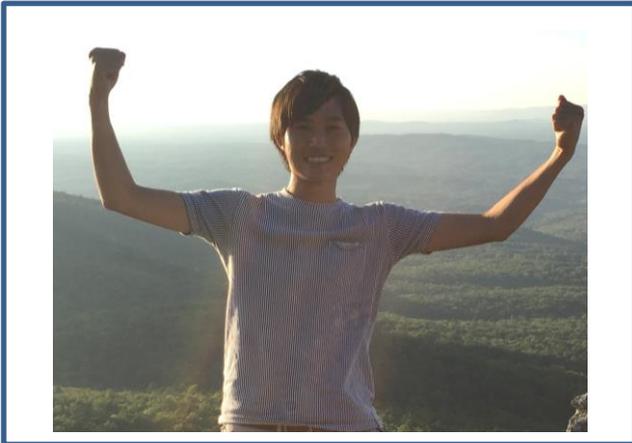


OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 芦田 拓弘 (Takuhiro Ashida)

所属 (School) 工学研究科 応用化学課程

学年 (Grade) 大学院 2年

留学先 (Name of overseas institution)

アメリカ・ウェイクフォレスト大学

留学期間 (study abroad period)

2017/8/30~2017/9/29

記入日 (Date) 2017/9/30 (帰りの飛行機にて)

留学レポート Study Abroad Report

私は1ヵ月間、アメリカのウェイクフォレスト大学（ノースカロライナ州）で短期研究留学を行いました。本レポートでは私の留学体験及びその成果、また現在留学を検討されている学生の方々へのアドバイス等を記述させていただきます。

留学に至った経緯

私が所属する研究室では機能性色素の分子設計から合成、そして応用まで一貫して研究を行っており、応用例としては有機薄膜太陽電池や色素増感太陽電池、そして私が現在取り組んでいるセンシング分野への応用が挙げられます。当研究室は、ウェイクフォレスト大学と学术交流協定を締結しており、以前より交流がありました。ウェイクフォレスト大学では主に糖やタンパク質、病原菌に対して機能性色素や炭素ドットを選択的に付加させ、その蛍光強度の変化から分析物を認識する研究を行っており、合成した機能性色素を評価する機器が整っています。私はこの度、関連する合成と機能性色素に対する結合または相互作用する生体関連物質の選定と結合形成の同定、会合挙動に関する研究を担当しました。この研究はウェイクフォレスト大学やその他の大学との共同研究でもあり、今回得られた結果をもとに論文を執筆する予定です。

渡航前の準備

私の場合、ウェイクフォレスト大学への研究留学の直前まで持参する色素の合成に時間を取られていたので、渡航前の準備は最も簡潔だったと思います。最も重要な手続きは、①パスポートの申請 ②ESTAの申請 ③航空チケットの取得（旅行代理店に依頼）です。渡航の準備で注意する点としては、手続きの順序を間違えないこと、つばさ基金に応募される方全員悩まれることだと思いますが、実際つばさ基金の留学支援が決まる前に留学先の大学もしくは機関へのアプローチが必要になります。またほとんどの方が、研究室の教授の方を通しての留学になると思います。なので、しっかりと順序を考えて手続きを進めないと、留学先や研究室の教授の方々に迷惑をかけることになるので、早め早めに行動して準備を進めましょう。その他の準備は私の場合、ゲストハウスに宿泊させて頂いたので、アメニティーやキッチン用品などの生活必需品は用意する必要はなく、着衣類だけで、後は現地調達という形でした。（現地で日本食を食べれる機会は全くなく、不安な方はインスタントのみそ汁やカップ麺、ご飯などを持っていくと、後々本当に助かります。現地のAsian Marketなどで手に入れる事が出来ますが、あまり口に合わない事が多い。）

アメリカでの食事を感じた事

私は生粋の日本人なので、アメリカの食べ物はoilyで苦労しました。現地での食生活が不安だという方は、参考にして下さい。

- アメリカはピザ・ハンバーガーばかりで、ほとんどの料理にチーズが入っている。メキシコ料理店が多く、口に合います。
- 日本食レストランは存在するが、中国の方が経営している事が多く、私が普段食べている味付けとは程遠く、味も薄い。
- どのgrocery storeでも醤油（キッコーマン）は唯一常備されている。私の場合、基本的に調理する料理全てに用いていた。とても便利。

- ・ アメリカのステーキは日本の肉と比べてあっさりしていて意外と脂っこくない。
- ・ お米も現地で購入することが可能。お鍋でご飯を炊く事になると思うので、日本にいる間にマスターしておくこと
- ・ 現地で調味料などは初めは必ず小さいサイズの物を試しに買うこと。(想像していた味と違う事が多く、大きいサイズを買ってしまうと後悔することに。私の場合、ふりかけの味が全く無く、ごま油が激辛であった。)
- ・ アメリカではビールはテイastingできる。積極的にテイastingして色々なクラフトビールを堪能しよう。種類も多いがその分口に合わない物も多い。
- ・ アメリカはビールが安い。日本で買うと 200~300 円くらいの物が 100 円くらいで買える。

アメリカでの研究生活

基本的には予定がない日は休日も含め朝から晩まで研究室で研究し、家では報告書の作成等、一カ月ほとんど研究の思い出しかありません。ただ研究では、予想していた結果が得られ、論文作成までの道筋を共有でき、また今後の役割分担まで話し合うことが出来たので、とても有意義な時間を過ごせたと感じています。最後の初めて研究成果をプレゼンしました。なので、私は皆さんと私が経験したアメリカで研究する際に注意すべき点を共有したいと思います。

- ・ 自分から積極的に研究スケジュール、研究内容を決めて話し合わないと、研究が進まない。日本では待っていても研究や雑務が降ってきますが、アメリカでは何も降ってこない。また、プライベートな時間を大事にする方が多く(当たり前ですが)、短期留学で研究する方は時間が無く、歯がゆい思いをする事になるかも。私の場合は日本で予めスケジュールと研究内容を決めて行ったのでその点ではスムーズに研究へ入ることが出来た。また機器操作方法、研究室のルールなどは一番初めに教わり、自分一人でも研究出来る状況をいち早く作ること。でないといかに研究が進まず、帰国なんて事も。
- ・ Speaking よりも Listening が重要。相手の話が分からないと始まらない。ノースカロライナ州では South Accent で話す人が多く、私のパートナーもそうでした。初めはパートナーの話している内容が全く入って来ず、これから行う研究の情報共有をしたいのに全くコミュニケーションが取れず四苦八苦していました。スピーキングは文法は多少崩れていても、単語が正しければ、何とか伝わります。なので、Vocabulary は事前に増やしておくべきだと感じました。

アメリカでの日常生活

ウェイクフォレスト大学はとてもスポーツが盛んでした。アメリカンフットボールやサッカー、野球など、それぞれに球場があり、休日の公式戦は客席がほぼ満員で、大声援に包まれていました。私が見に行ったアメリカンフットボールの試合は両大学のマーチングバンド、チアガール、試合前にアメリカの国旗を掲げた人がパラシュートでコートに上空から登場し、実況中継の中、試合が進められ、TV放映されます。プロの試合を観戦しに来ているようでした。

居酒屋感覚でアメリカの方は Bar に行きます。私が行った Bar ではビリヤードではなく卓球が置いてあり、またアメリカ人は卓球が上手くてビックリしました。(卓球の事をピンポンといいます。)

教授の方の家に招かれ、ホームパーティーに参加しました。日本では勿論ない文化で、教授の方の家に行くなんて。とても緊張しました。しかし、とてもフレンドリーな方で、伝統的な料理の説明や、文化や考えの違いなど、とても理解のある方でした。研究室のメンバーもアメリカ、中国、オーストラリア、バングラデシュととても多国籍で、色々な習慣や文化に触れることができました。自国の文化や考えなどは、英語で一度整理しといた方が良いかと思えます。

留学を検討している学生へのアドバイス

私は研究を含め一か月の留学のために半年間以上準備してきました。直前の2 か月は朝から日を跨いで、2 時、3 時に帰る生活が続き、途中、留学しない方がどれだけ楽なのだろうと後悔することが毎日ありました。ただ、今留学を終え、達成感で満ち溢れています。私は来年から世界を飛び回るような会社で仕事を始めます。この学生の中に留学しておいてとても良かったなと今は感じています。学生の今だからチャレンジできる事でもあり、また感じることも社会人になってからと違うと思います。今の内に、勇気を振り絞って、一歩踏み出そう。自分が知らなかった文化・考えに触れ、自分の考えがより深まります。成長するチャンスがこのつばさ基金だと思います。このチャンスを利用して本当に良かったと思います。大阪府立大学はそんな人を支援してくれる素晴らしい大学であると今回の留学を通して改めて感じました。最後になりますが、このような貴重な体験が出来たのは、大阪府立大学の関係者各位の皆さまのご協力、ご支援の他にありません。心より御礼申し上げます。